

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生化学系分野		医科分子生物学特論Ⅱ				栗林 太	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2		選択		2			
目的							
<p>(1) 分子標的治療薬の例を挙げるまでもなく、医療医科学と分子生物学的の密接性は高まっているので、本授業では医療を分子の視点から問うことを行いたい。受講により学生は分子生物学と医療医科学との関係を理解して、実験科学における疑問を解決する能力を獲得する。</p> <p>(2) 本授業は今後の医療への応用への一助となることによって、受講学生の研究遂行能力が高まる。</p> <p>(3) また、本授業は討論を重視している。そのため、受講学生は自ら問題発見力を高め解決策を獲得する。</p>							
授業到達目標							
<p>(1) 現存の核酸やタンパク質等の実験内容を説明できる。</p> <p>(2) 実験生物化学における可視化に関して理解できる。</p> <p>(3) 論文紹介において、既知と未知の区別ができ、紹介論文の良い点と悪い点の判断ができる。</p> <p>(4) 医療医科学と分子生物学の進歩を説明でき、更に遺伝子解析技術を一人で実施することができる。</p>							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	隔週	金	16:00-17:30	岡本 秀一郎	講義	[抄読会]	細胞生物学, 分子生物学の英文論文を紹介し, それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
2	隔週	金	16:00-17:30	栗林 太	講義	[抄読会]	分子生物学, 生物化学の英文論文を紹介し, それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟6階カンファレンス室12]
評価方法							
<p>(1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。</p> <p>(2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものと異なる論文(症例)であること。</p> <p>※2月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。33頁:単位履修方法参照。</p>							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
<p>(1) 毎月、提出課題(レポート)に関するフィードバック講義と討論を行う。</p> <p>(2) 2月には全てのレポートの振り返り講義と総括を行う。</p>							
教科書							
ISBN-9784524262144, Essential 細胞生物学, Bruce Alberts [ほか] 著; 青山聖子 [ほか] 訳, 南江堂, 2011							
参考書							
ISBN-9784621088975, イラストレイテッド生化学, Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier [著]; 浅井将 [ほか]訳, 丸善出版, 2015							
準備学習(予習・復習等)							
<p>(1) あらかじめ直接の紹介論文を1時間、更には関係諸論文を各自検索調査を行い、それらも1時間以上読んでから講義に参加すること。</p> <p>(2) 講義中に出てくる疑問点を中心に、1時間程度の復習をしてください。</p> <p>(3) 予習と復習の有無を講義中に確認します。具体的には、各自の課題発見能力を自学自修により高めることが必要です。</p>							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
この授業科目では、実験生物学における問題の発見能力と解決方法を学びます。その能力は学位認定のために必要です。							
注意事項・メッセージ							
<p>(1) 大きな日程変更はありませんが、担当者や日程が変更する可能性があります。</p> <p>(2) 学生の論文紹介に関して、希望があれば発表前に個別指導を行います。</p>							